

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 広島県立安古市高等学校 (※正式名称を記載)

種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}

中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校

教員養成大学 専修学校、各種学校

特別支援学校

その他 (例: 小中高一貫)

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒731-0152

広島市安佐南区毘沙門台 3-3-1

E-mail yasufuruichi-h@hiroshima-c.ed.jp

Website http://www.yasufuruichi-h.hiroshima-c.ed.jp/

児童生徒数 男子 402 名 女子 554 名 合計 956 名

児童・生徒の年齢 15 歳 ~ 18 歳

2. 報告期間

平成 29 年 4 月 ~ 平成 30 年 3 月

※報告書提出時点 ~ 平成 30 年 3 月末までの活動は、予定 (見込み) として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800 字程度 + 活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

当校は、「仰高」～論理力と共感力～をビジョンとして、取組を進めている。本校の校訓「仰高」(心豊かな人生の創造をめざし高遠の理想を仰ぐ)の精神のもと、広島を愛しグローバル社会に貢献できるリーダーを育成することを使命としている。ESDを、持続可能な開発に関する諸課題の解決に向け、具体的・継続的に考え、実践する諸活動の総体と捉え、具体的には、2つの力、すなわち、隣人、地域や世界の人々とつながるために不可欠な言語や合理的思考を裏付ける「論理力」と、相手の考えや思いを理解し受けとめる「共感力」の両方を育成していくことを柱に、①環境負荷低減に係わる活動、②持続可能な社会の形成に係わる学習、③人権尊重に係わる教育を行った。

①の活動としては、教科横断的な環境学習、生徒総会での身近な課題の改善提案、美化活動でのゴミ削減、エアコン使用の抑制、使用電力量の見える化等に継続的に取り組んでいる。今後は生徒会により使用電力データの解析を行う予定である。またサステイナブルスクールとして校内体制の見直しを進めている。

②の活動としては、1学年では、総合学習でSDGsの基礎的知識を学習し、17分野と関連づけたテーマを設定し、新聞切り抜き作品制作に取り組んだ。新聞記

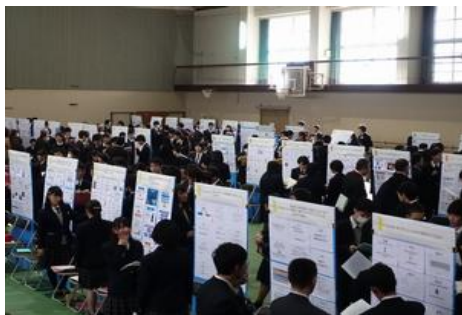
者によるワークショップの後、日々の新聞記事から情報を収集・整理し、作品化し、他クラスへの出張プレゼンテーションで内容を共有した。2学年では、個人での探究活動に取り組んだ。環境・防災・平和・教育・ジェンダーなどの分野にアプローチし、ポスター発表会での質疑応答を経て、その成果を論文としてまとめた。ポスター発表には、地域住民の方、大学関係者、他校の教員、保護者等多くのゲストを外部から招いた。また、修学旅行で、社会的課題の現場に出会う「スタディツアー」を実施し、地域再生、食品ロスの解消、伝統産業の継承、異文化理解等をテーマに、現地視察とワークショップを行い、全員で共有した。3学年では、「持続可能な社会の実現をめざして」というテーマでパネルディスカッションに取り組んだ。各クラスで討議した「世界の貧困問題」「LGBTと平等」「世界の水問題」「生物多様性の保全」等についての報告・共有の後に、「地方の衰退」とどう向き合い、克服するかについて全体での討議を行った。弁護士・新聞記者の2名の社会人アドバイザーからも問題提起や助言をうけて討議を深めた。また町内会との合同防災訓練を実施し、災害発生時の協力体制の構築に当たった。



①生徒総会での施策提案採決



②1学年 新聞切り抜き作品制作



②2学年 ポスター発表会



②2学年 スタディツアー全体発表



②3学年 パネルディスカッション



②地域住民との合同防災訓練

③の活動としては、大学と連携し、人権教育の視点からの1学年のディベートに取り組んだ。聴衆が両者の主張をよく聞き、公正かつ論理的に判定する力をつけることや、ゲームとしてのディベートと現実社会での問題解決をの違いを理解することに重点を置き取り組んだ。また、1学年では、広島ハーネスの会から講師を招き、障害者の日常や社会的な課題について具体的に知り、より暮らしやすい社会を実現するための方策について考える機会とした。



③1学年 ディベート



③1学年 人権道德講演会

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

■ 1. 環境	■ 2. エネルギー	■ 3. 防災	■ 4. 生物多様性
■ 5. 気候変動	■ 6. 国際理解、文化多様性	■ 7. 地域の伝統文化、文化遺産	■ 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	■ 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	■ 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
■ 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

■ 1. 批判的に考える力	■ 2. 未来像を予測して計画を立てる力
■ 3. 多面的、総合的に考える力	■ 4. コミュニケーションを行う力
■ 5. 他者と協力する態度	■ 6. つながりを尊重する態度
■ 7. 進んで参加する態度	
■ 8. その他(自由記入 自らを振り返り, 修正する力)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

■ 1. 教科の時間	■ 2. 総合的な学習の時間
■ 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

「私たちが目指す世界」子どものための「持続可能な開発目標」（NPO 10 団体で作成されたパンフレット）

「持続可能な開発目標推進本部」HP <http://www.kantei.go.jp/jp/singi/sdgs/>
「2030 SDGs で変える」（朝日新聞社）等

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

広島県が取り組む「学びの変革」に基づき、「主体的・対話的で深い学び」にむけて、ユネスコスクールとしての活動を位置づけている。具体的には本校が生徒に育てたいコンピテンシー「ESDの視点」と「グローバルシチズンシップ」を設定し、この観点から諸事象を捉え、課題解決に取り組む意欲・実践力を培うこととしている。これらのコンピテンシーは、総合的な学習の時間及び各教科における授業等において、単元の内容に即して指導の重点として、評価項目に位置づけ、生徒自身による自己評価や教員による形成的評価活動を通してその能力の伸長を図っている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

管理職のリーダーシップのもと、企画研修部を主担当として校務分掌上に位置づけ、広島県の「学びの変革」とリンクさせて、カリキュラム改善や推進体制の見直しを進めている。高大連携やユネスコスクール事務局との連携のもと、授業改善・実践交流に取り組んでいる。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

学校経営計画に「異なる価値観を持った人と協働して、持続可能な社会の担い手となる生徒を育てる学校」をミッションとし、ESDの普及・深化を評価する項目を行動計画にあげ、校内全体で共有している。また、外部の学校評価委員により定期的な監査を受け、その都度外部評価を受け、フィードバックしている。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

校内での取組については、総合的な学習の時間・特別活動・修学旅行・研究授業・ボランティア等での実践について、随時学校HP、学年通信、進路だより等の媒体により、生徒・保護者・一般に対して周知している。個別の実践と相まって生徒・保護者・地域の認識の深まりがみられる。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

本年度は、ユネスコスクール加盟校及び支援大学による ESD 研修会において、本校の取組内容及びその成果と課題について発表し、討議に付し今後の改善について検討して頂いた。来年度から2年間、広島県のユネスコスクール事務局校となる予定である。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

昨年度は、インドネシア、インド及び神戸のユネスコスクールとの交流学習・スカイプ会議を実施した。今年度は、オーストラリアの姉妹校の生徒との間で、地球環境問題をテーマとしたディスカッションを実施した。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項2-5に対応

ユネスコの理念を踏まえ ESD の視点から物事を考えることで、社会的事象をより深く理解することができる。特に環境・経済・社会のバランスを考慮して持続可能な発展を展望することの重要性に気づくことで、見方・考え方について多面的にとらえることができるようになった。広島県が取り組んでいる「学びの変革」と呼応して、「主体的・対話的で深い学び」にむけ役立つものとなっている。

- (3) 平成 30 年度の活動計画（200～400字程度）

フードプロジェクト、サステイナブルスクールでの学びを受け、校内体制のさらなる構築を図る。ホールスクールアプローチシート及びカリキュラムマップ作りを通して、推進体制を強化する。姉妹校への短期留学・姉妹校の受け入れを通じて、ESD の視点からの国際交流を図る。

総合的な学習の時間において、ESD の視点及びグローバルシチズンシップに立脚し、協働的な活動による課題探究を実施する。

各教科の学習において、より「主体的・対話的で深い学び」となるような、授業実践・評価方法について研究する。

特別活動において、さらに地域社会との交流を深化させ、共助共生の地域社会作りに貢献する。

広島県ユネスコスクール事務局校として、ユネスコスクール間の交流、実践の深化を支援し、ユネスコスクール活動の意義・成果をアピールする。